

# 地理歴史科「日本史B」授業実践紹介

授業者：下垣 豪

学 年：3年次

単元名：恐慌の時代 ※大正時代～昭和時代初期

単元のねらい（7つのチカラ：職業とつなぐ力、考える力）

戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内外の経済状況と対策に着目して理解する。

## 単元の流れとパフォーマンス課題

### （1）単元の流れ

- ①戦後恐慌から金融恐慌へ（本時）
- ②社会主義運動の高まりと積極外交への転換
- ③金解禁と世界恐慌
- ④協調外交の挫折

### （2）本時の流れ

授業展開については、臨時休業になっても、実施可能な授業にすることを特に意識している。本実践についても、最後のワークシート記入の際に Google のフォームを利用すれば、同じ内容の授業をオンラインで実施することができる。



#### ①導入・問いの確認

現代の銀行破綻の新聞記事を資料として用いて、「取付け騒ぎ」のイメージを共有し、当該の時期が恐慌が連続して起こる不景気の時代であることを理解した上で、本時の問い（若槻内閣はなぜ金融恐慌を收拾できなかったのか？）を確認する。

#### ②授業プリントの語句の確認

配付する授業プリントの空欄を、生徒が各自で教科書を見ながら埋めていく。（右上写真参照）

語句の共有は Google のスプレッドシートを使用して行う。指名された生徒がスプレッドシートに入力し、iPad の画面上で（教室のスクリーンにも表示する）確認する。（左下写真参照）

#### ③説明・知識理解

授業プリントを見ながら教員が口頭で説明したり、NHKforSchool の動画を視聴するなどして、基礎的な知識を理解する。

#### ④小テスト

Google のフォームを使用して小テストを行い、重要事項を確認する。（右下写真参照）

#### ⑤ワークシート記入

問いの答えをワークシートに記入して提出する。

記入する前にワークシートの評価基準を確認する。また、解答する際のポイントを生徒に質問しながら確認し、板書し、共有しておく。

	A	B	C	D	E
1	1	若槻礼次郎	11	浜口雄幸	
2	2	金融	12	井上準之助	
3	3	鈴木商店	13	世界	
4	4	田中義一	14	昭和恐慌	
5	5	モラトリアム	15	重要産業統制法	
6	6	三・一五事件	16	ロンドン海軍軍縮	
7	7	山東出兵	17	統帥	
8	8	張作霖			
9	9	済南事件			
10	10	満州某重大			

金融恐慌小テスト

このフォームを送信すると、メールアドレス（shimogaki@wakesizu1.okayama-c.ed.jp）が記録されます。自分のアカウントでない場合は、[アカウントを切り替えてください](#)

1926年、中国において国民党が軍閥の制圧のため始めた軍事行動を何と 1ポイント  
いふか。

日清戦争  
 義和団事件  
 北伐

金融恐慌の際、ある総合会社の破綻が台湾銀行の経営危機の要因となっ 1ポイント  
た。この総合会社の名称を答えよ。

大阪紡績会社  
 鈴木商店  
 三井物産

1928年、関東軍が張作霖を奉天郊外で爆殺した事件は日本では何と報道 1ポイント  
されたか。

## パフォーマンス課題の評価

### (1) 小テスト

各單元ごとに、Google のフォームを使用して、重要事項や理解度を確認するための小テストを行い、その取り組みを評価する。現在は、小テストの得点ではなく、きちんと取り組んだかどうかのみを評価しており、観点 I 関心・意欲・態度の評価に含んでいる。

### (2) 各単元の問いの答え（ワークシート）

生徒の解答は3段階（A・B・C）で評価する。Aは、金融恐慌を收拾できなかった理由について、指定語句を用いて、大陸政策との関係を踏まえて答えることができているもの。Bは、大陸政策との関係など、回答内容が不十分なもの、または指定語句を用いていないもの。Cは文章化できていないなど、記述の技能及び意欲が基準を満たしていないもの。

## 評価

	A	B	C
I 関心・意欲・態度	授業プリントの空欄補充に確実に取り組み、問い、解答例もきちんと記入し、学習後に提出することができる。iPad で行う小テストに解答している。	授業プリントの記入・提出、小テストの取組が不完全	授業プリント、小テストに取り組んでいない。
Ⅲ 技能	歴史的事象を用いて具体的に説明し、文章が破綻していないもの	説明が具体的でない、指定された語句が使用されていない、など不十分な点があるもの	未記入など、Bに満たない内容のもの

## 単元を通して身につけてほしいこと

1920年代から30年代初頭にかけて、日本は深刻な不景気が続くまさに恐慌の時代であり、そこで拡大し、顕在化した貧富の差がその後のファシズムの台頭、戦争へつながったということは、重要な歴史的事実である。

貧困や格差を解決する手段として戦争が選択される可能性が、現代社会において絶対にはないとは言えないし、経済のグローバル化が進展する中、様々な形でのナショナリズムが台頭しており、二度の世界大戦を振り返るとき、参考になる点は多い。本単元の学習を通じて、現代の世界情勢にも戦争につながる様相が多く存在することを理解してほしい。そして、このように貧困と戦争の関係について学習することは、なぜ国際社会が協力して貧困や教育の問題に取り組まなければならないのかを理解する上で重要な視点であると考えている。